

# 心理福祉学科

渡邊 兼行  
白川 充  
増田 幹司  
山崎 洋史  
郡山 昌明

志水 田鶴子  
中嶋 みどり  
茂木 千明  
結城 裕也

家子 敦子  
高田 洋平  
三浦 和夫  
吉田 弘美

## 自己点検表

### 1. 教員個別表

フリガナ 氏名	ワタナベトモユキ 渡邊兼行	職名 人間学部	教授 心理福祉学科	取得学位 (大学名)	Ph.D. タフツ大学	(取得年月) 2001年5月
------------	------------------	------------	--------------	---------------	----------------	----------------

### 2. 教育・研究業績表

#### (1) 過去5年間の教育業績

教育実践上の主な業績	年月(西暦)	概要
1. 「心理学」・「心理学概論」 3 回の間テストとそのフィードバックによる自己制御学習の促進	2017.4～	「心理学」・「心理学概論」の授業において、中間テストを3回設け、その解答返却を1週間以内に行った。これにより、受講者の理解度の把握を助け、各自が自己の進捗を確認しながら授業に参加できるような体制を整えた。
2. 「心理学」・「心理学概論」 実験参加を評価に取り入れることによる、心理学の実証的側面の体験的理解の促進	2009.4～	「心理学」・「心理学概論」の授業において、教員や上級生の実施する実験への参加を成績評価の一部に反映させた。これによって、心理学の実証的側面に触れる機会を設け、体験的理解を促すことを狙った。
3. 「心理学」・「心理学概論」 LMS による自学自習の促進	2013.4～	「心理学」・「心理学概論」の授業において、授業ブログを設置し、補足資料を配布するなどして、学生の自学自習の補助とした。2016年度からは、LMSを利用して、課題の提出もweb上から可能となった。
4. 「認知心理学」・「知覚・認知心理学」 毎回の予習課題の提示	2011.4～	「認知心理学」・「知覚・認知心理学」の授業において、学生の自学自習を促すため、毎回の予習課題を課した。2016年度からは、LMSを利用して、課題の提出もweb上から可能となった。
5. 「認知心理学」・「知覚・認知心理学」 LMS による自学自習の促進	2014.4～	「認知心理学」・「知覚・認知心理学」の授業において、授業ブログを設置し、補足資料を配布するなどして、学生の自学自習の補助とした。2016年度からは、LMSを利用して、課題の提出もweb上から可能となった。
6. 「学習・言語心理学」 毎回の予習課題の提示	2020.9～	「学習・言語心理学」の授業において、学生の自学自習を促すため、毎回の予習課題を課した。

7. 「学習・言語心理学」 LMS による自学自習の促進	2020.9～	「学習・言語心理学」の授業において、LMS を利用して、授業資料の提示、予習課題の提出などを web 上から可能とし、学生の自学自習を促した。
8. 「心理学基礎論」 毎回の予習課題	2010.9～	「心理学基礎論」の授業において、学生の自学自習を促すため、毎回の予習課題を作成し、課した。2016 年度からは、LMS を利用して、課題の提出も web 上から可能となった。
9. 「心理学基礎論」 LMS による自学自習の促進	2014.4～	LMS を利用して、資料の配布、課題の提出も web 上から可能となった。
10. 「心理学基礎論」 高い比重の発言点を導入	2010.9～	「心理学基礎論」の授業において、活発な授業参加と学生の表現力の向上を目指して、発言の成績に対する比重を 25%とし、積極的な発言と授業参加を促した。
11. 「心理学基礎実験Ⅰ」・「心理学実験Ⅱ」のコーディネーター	2009.4～	心理学担当教員 3 名で、小グループを担当して行う実験実習の授業において、コーディネーターとして授業のプログラム作り、教員間の調整作業に従事した。

(2) 過去5年間の研究業績

I 研究活動						
著書・論文等の名称	単著 共著	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共著者名 (共著の場合)	編者名と当該執筆 者数(編著の場合)	該当頁数
[著書]						
1. 自ら実感する心理学 —こんなところに心理学—	共	2021.1	教育情報出版		土肥伊都子(編) 他 25 名	57-58 63-64
[論文]						
1. The self-choice effect from a multiple-cue perspective.	共著	2004.2	Psychonomic Bulletin & Review. 11	Watanabe, T., & Soraci, S. A.		168-172
翻訳						

翻訳書・翻訳論文等の名称	単訳 共訳	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共訳者名 (共訳の場合)	監修者名と当該訳者 数(監修訳書の場合)	該当頁数
学術研究発表						
発表テーマ			発表年月(西暦)	発表場所		
1. 洞察問題解決の学習と転移			2019.9	日本心理学会第 83 回大会(立命館大学)		
2. 思い出し笑いについての予備的研究			2021.8	日本笑い学会第 28 回大会(椋山女学園大学)		

II 所属学会		
学会名	役職	入会年月(西暦)
日本心理学会		1998
日本教育心理学会		1998
日本認知心理学会		2003
日本笑い学会		2021

III 研究費の助成を受けた研究(過去 5 年間)				
助成機関名	助成を受けた年度 (西暦)	助成プログラム	研究テーマ	助成金額 (円)

### 3. 特記事項

・大学基準協会 評価委員(2022 年度)
-----------------------

## 自己点検表

### 教員個別表

フリガナ シラ カワ ミツル	職 名 教授	取 得 学 位 社会学修士
氏 名 白 川 充	人間学部 心理福祉学科	(大学名) 東北福祉大学 (取得年月) 1984年3月

### 2. 教育・研究業績表

#### (1) 過去5年間の教育業績(2018.4～2023.5)

教育実践上の主な業績	年月(西暦)	概 要
1. リアクションペーパーによる授業理解度と質問内容の把握	2004～ 現在に至る	<p>講義科目は、授業展開と受講者数の関係で、教員側からの説明、解釈を伝えることが中心である。そこで、LMS を活用しリアクションペーパーに、①「理解できたこと」、②「理解できなかったこと・感想」を提出してもらうことにより、授業内容に関する学生理解を把握している。</p> <p>また質問については、同じくLMSを活用し次回の授業内容とともに回答を付けた PowerPoint を掲載し、さらに授業の中で解説するようにしている。</p>
2. ICT 活用教育への取り組み	2008～ 現在に至る	<p>ICT 活用教育として、他学科の教員、本学科の助教とともに、①LMS を利用した e-learning による社会福祉国家試験対策システムの開発を行った。また、現在も LMS を活用して、①予習・復習用教材の提示、②授業関連の情報提供、③ブレンディド・ラーニングの試行(レポート課題の添削指導等)を行っている。</p>
3. 「心理福祉総合演習Ⅰ～Ⅳ 白川ゼミ報告書」の作成	2021.4～ 現在に至る	<p>3年、4年の白川ゼミ(授業名:心理副総合演習Ⅰ～Ⅳ)の報告書をまとめている。内容としては、1年間のゼミ活動の総括と、ゼミで取り組んだ3・4年共通課題の成果、3年のゼミ論、4年の卒論である。</p>

## (2) 過去 5 年間の研究業績(2018.4~2023.5)

I 研究活動						
著書・論文等の名称	単著 共著	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共著者名 (共著の場合)	編者名と当該執筆 者数(編著の場合)	該当頁数
[著書]						
1. ソーシャルワーカーのための研究ガイドブック	共著	2019. 4	中央法規出版	白川充他	日本ソーシャルワーク 学会監修、池田雅子、 白川充他	30-33 頁 154-155 頁
2. ソーシャルワークの基盤と専門職	共著	2021. 1	ミネルヴァ書房	白川充他	空閑浩人、白澤正和、 和気純子編著	133-148 頁
[その他]						
1. 福祉専門職養成における ICT 活用教育の課題	共著	2021. 12	日本社会福祉教育学会誌(第 24号)	白川充他	保正友子、池田雅子、 佐藤貴之	35-58 頁
2. 社会福祉施設におけるレジデンシャル・ソーシャルワーク(Residential Social Work)の構想と定着に関する実習的研究-母子生活支援施設お機能強化を中心に-(研究報告書)	共著	2022. 11	全国母子生活支援施設協議 会・日本ソーシャルワーク学会 による施設ソーシャルワーク に関する共同研究会	白川充他	白川充、菅田賢治、芳 賀恭司編著	29-30 頁 35-42 頁 62-65 頁
翻訳						
翻訳書・翻訳論文等の名称	単訳 共訳	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共訳者名 (共著の場合)	監修者名と当該訳者 数(監訳書の場合)	該当頁数

学術研究発表		
発表テーマ	発表年月	発表場所
1. 施設ソーシャルワーク(RSW)再考－社会福祉法人と社会福祉施設におけるソーシャルワークの位置と検討課題－(シンポジスト)	2019. 7	日本ソーシャルワーク学会 第 36 回大会 学会企画シンポジウム B(淑徳大学)
2. 福祉専門職養成における ICT 活用教育の課題(コーディネーター)	2021. 6	日本社会福祉教育学会 第 17 回大会 学会企画シンポジウム(オンライン開催)
3. 母子生活支援施設におけるソーシャルワーク実践の枠組みとその構築のための検討(1)－A 施設を退所した 14 事例の分析と考察－	2022. 7	日本ソーシャルワーク学会 第 39 回大会 自由研究報告(オンライン開催)
4. 母子生活支援施設におけるソーシャルワーク実践の枠組みとその構築のための検討(2)－母子支援員へのインタビュー調査－	2022. 7	日本ソーシャルワーク学会 第 39 回大会 自由研究報告(オンライン開催)
II 所属学会		
学会名	役職	入会年月(西暦)
日本社会福祉学会		1983
日本ソーシャルワーク学会	2012. 4～2024. 7 学会理事	1995
日本社会福祉教育学会	2014. 10～2017. .9 学会理事 2020. 6～2023. .6 学会理事(副会長)	2006

Ⅲ 研究費の助成を受けた研究(過去5年間)				
助成機関名	助成を受けた 年度(西暦)	助成プログラム	研究テーマ	助成金額 (円)

### 3. 特記事項

(講演会・講習会等)

1. 社会福祉士・精神保健福祉士 実習担当教員講習会(講師)(2015～2018)

(社会的活動)

1. 社会福祉法人仙台いのちの電話 評議員(2010.12～2024 定時評議委員会)

2. 日本社会福祉学会 学会機関誌査読委員(2018.1～2023.12)

3. 社会福祉士及び精神保健福祉士試験委員(2019.5～2022.4)

4. 全国母子生活支援施設協議会 協議員(2021.4～2023.3)

(大学の運営管理上の実績)

1. 総合福祉学科 人間福祉専攻主任(2007.4～2009.3)

2. 学生部長(2009.4～2013.3)

3. 教務部長(2013.4～2014.3)

4. 人間学部長(2014.4～2016.3)

5. 心理福祉学科長(2016.4～2017.3)

6. 人事計画委員会 委員長(2019.4～2021.3)

7. 教務部長(2021.4～2024.3)

## 自己点検表

### 1. 教員個別表

フリガナ     マスタ     カンジ 氏     名     増田   幹司	職     名     特任教授 人間学部     心理福祉学科	取 得 学 位     経済学修士 (大学名) 早稲田大学     (取得年月)1987年 3月
---	-------------------------------------	---

### 2. 教育・研究業績表

#### (1) 過去5年間の教育業績

教育実践上の主な業績	年月(西暦)	概 要
1 旭川大学保健福祉学部における科目の担当においては、学生の主体的学びを推進するために、 ①特別講師を招聘しての授業の実施 ②学外授業の実施	(2015.4) ~ 2019.3	①2018年度は、北海道大学大学院教授で前厚生労働省社会援護局福祉基盤課福祉人材確保対策室長を招聘して授業を実施し、職業としての福祉を学生が主体的に考える契機を提供した。 ②2018年度においては、学生に、旭川社会福祉協議会(理事を2期4年間務めた)が主催した「平成30年度 地域支えあいのまちづくりセミナー」(大阪府・豊中市社会福祉協議会福祉推進室長を講師に招聘)に参加してもらい、現実的にどのような方法論で「地域の中での共生」を推進しているのかについて考える機会を与えた。
2 仙台白百合女子大学における社会福祉士養成課程等指定科目の担当においては、学生の主体的かつ効率的な当該指定科目のカリキュラム内容習得の学びを推進するために、 ・原則授業毎回の当該カリキュラムに適應したテキストに沿った予習的課題の出題	2020.9 ~	・厚生労働省社会援護局等のガバナンス下に授業内容等がある社会福祉士養成課程等の指定科目であることから、当該カリキュラムに適應したテキストを使用するとともに、「教育に含むべき事項(内容)」のボリュームが多い社会保障のような指定科目においては、ほぼ毎回原則としてテキストに沿う予習的課題を課したうえで当該カリキュラムに忠実に沿った授業内容としつつテキストの内容を学生に習得させるよう努めている。

#### (2) 過去5年間の研究業績

I 研究活動						
著書・論文等の名称	単著 共著	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共著者名 (共著の場合)	編者名と当該執筆 者数(編著の場合)	該当頁数
[著書]						
1.「雇用労働における今日的課題」『社会保障の保守主義(増補改訂版)』	共	2018.3	ブックウェイ	岸 功		pp.309-324
2.外国人観光客にも適用される事故補償制度」『ニュージーランド Today』	共	2019.4	春風社		ニュージーランド学会 35名	pp.142-143

[学術論文等] 1.ニュージーランド事故補償制度(通称 ACC)に関する一研究一適用範囲拡大に向けた議論と動向に関する検討一(査読付)	単	2018.3	『ニュージーランド研究』第 24 巻・ニュージーランド学会			pp.15-37
	単	2018.3	『公共政策学』第 12 号・北海道大学公共政策大学院			pp.111-136

翻訳						
翻訳書・翻訳論文等の名称	単訳 共訳	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共訳者名 (共訳の場合)	監修者名と当該訳者 数(監修訳書の場合)	該当頁数
学術研究発表						
発表テーマ			発表年月(西暦)	発表場所		

II 所属学会		
学会名	役職	入会年月(西暦)
ニュージーランド学会	監事(2011.12～)	2007.7
日本高齢者虐待防止学会		2008.4
日本キャリアデザイン学会		2010.3
日本ニュージーランド学会		2017.5
過労死防止学会		2017.5

III 研究費の助成を受けた研究(過去 5 年間)				
助成機関名	助成を受けた年度 (西暦)	助成プログラム	研究テーマ	助成金額 (円)

### 3. 特記事項

旭川成年後見支援センター 運営委員会 運営委員長(2015.4～2019.3)
旭川市社会福祉協議会 理事(2015.5～2019.6)
旭川市国民健康保険運営協議会 会長代行(2015.9～2017.9)

## 自己点検表

### 1. 教員個別表

フリガナ コオリヤマ マサアキ 氏 名 郡山 昌明	職 名 准教授 人間学部 心理福祉学科	取得学位 社会福祉学修士 (大学名)東北福祉大学大学院 (取得年月) 2006年3月
------------------------------	------------------------	---

### 2. 教育・研究業績表

#### (1) 過去5年間の教育業績

教育実践上の主な業績	年月(西暦)	概 要
1. 演習科目において、臨床場面でより具体的な資料を用いて理解を深める工夫をした。	2003.4～	演習は、使用テキストを中心にその事例を用いて行っているが、学生がイメージできない状況であった。 2003.4 に本学に就任して以来、臨床での経験を活かし、社会資源等の資料をより現実的なものを学生に提供し、説明を加えて行った。
2. 各授業において「振り返り」票を用いて、学生の講義に対する理解と自らの【振り返り】を記載して次回の講義内容へ反映させた。	2003.4～	授業において「学習の振り返り」票を配付した。その中で学習の課題、授業への参加、感想と提案、イラスト(授業で受けた印象など)を記載してもらい、個々の学生の疑問、到達度、意欲などを把握して次回の授業の改善や個々の学生への指導材料とした。

#### (2) 過去5年間の研究業績

I 研究活動						
著書・論文等の名称	単著 共著	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共著者名 (共著の場合)	編者名と当該執筆 者数(編著の場合)	該当頁数
[著書] [論文] 1. 精神障害者の就労支援における課題の明確化—就労継続支援 B 型施設における利用者を中心に	単著	2017.03	仙台白百合女子大学紀要 第21号			105-117
2. 就労継続支援 B 型事業所における事業内容に関する研究—宮城県内の就労継続支援 B 型事業	単著	2021.03	仙台白百合女子大学紀要 第25号			47-61

所を中心にー 【資料】 1. 新型コロナウイルス感染症拡大に伴う遠隔授業が学生の精神的健康に及ぼす影響—仙台白百合女子大学におけるパネル調査から—	共著	2021. 03	仙台白百合女子大学紀要	結城裕也・郡山昌明・渡辺兼行		119-137
---	----	----------	-------------	----------------	--	---------

翻訳						
翻訳書・翻訳論文等の名称	単訳 共訳	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共訳者名 (共訳の場合)	監修者名と当該訳者 数(監修訳書の場合)	該当頁数

学術研究発表		
発表テーマ	発表年月(西暦)	発表場所

II 所属学会		
学会名	役職	入会年月(西暦)
日本医療福祉学会 日本社会福祉学会 東北精神保健福祉学会		1986.4～ 2005～ 2015～

Ⅲ 研究費の助成を受けた研究(過去5年間)				
助成機関名	助成を受けた年度 (西暦)	助成プログラム	研究テーマ	助成金額 (千円)

### 3. 特記事項

東北こども福祉専門学院 非常勤講師 2013～  
 仙台徳洲看護専門学校 非常勤講師 2017～  
 宮城県社会福祉協議会 平成30年度宮城県サービス管理責任者及び児童発達支援管理責任者研修 講師 2018.10.31  
 自衛隊仙台病院准看護学院 看護専門科目「精神看護」のうち「心の働きと精神保健」「精神保健の歩み」「精神保健福祉の現状と課題」担当 講師 2019.2.1  
 及び2.8  
 仙台白百合学園高等学校 「総合福祉」 2023.4.13, 4.27, 5.11, 5.18, 5.25  
 特定非営利活動法人ソキウスせんだい 「福祉サービス利用に関する苦情解決制度」第三者委員 2012～  
 社会福祉法人 ゆうゆう舎 理事 2009.4～  
 NPO 法人雲母倶楽部 理事

## 自己点検表

### 1. 教員個別表

フリガナ 氏名	シミズ タツコ 志水 田鶴子	職名 人間学部	准教授 心理福祉学科	取得学位 (大学名)	修士(社会福祉学) 東北福祉大学	(取得年月) 2001年3月
------------	-------------------	------------	---------------	---------------	---------------------	----------------

### 2. 教育・研究業績表

#### (1) 過去5年間の教育業績

教育実践上の主な業績	年月(西暦)	概要
社会福祉士・精神保健福祉士養成の実習・演習カリキュラムにおけるカスタマーティーチャーの活用に関する研究を行った	2005.1～現在	社会福祉士・精神保健福祉士養成の実習・演習カリキュラムを効果的に運用するために、施設利用者・実習指導者・教員が学生に対して指導を行うプログラムを作成した。演習でのロールプレイに施設利用者に参加するカスタマーティーチャーを導入し、学生への指導を施設利用者にも担ってもらう教育体制を構築した。この取り組みについては、「社会福祉士養成校における実習・演習カリキュラムの具体的展開に関する研究-実習先施設利用者・職員・教員の協働によるプログラム作成及び試行をふまえて」、仙台白百合女子大学紀要 2004,第9巻に発表した。

#### (2) 過去5年間の研究業績

I 研究活動						
著書・論文等の名称	単著 共著	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共著者名 (共著の場合)	編者名と当該執筆 者数(編著の場合)	該当頁数
社会とのつながりが途切れるプロセス—高次脳機能障害者を対象とした複線経路・等至性モデル(TEM)分析を通して—	単著	2021	一般社団法人日本社会福祉学会 関東部会 社会福祉学評論(21)			117-127
[著書] どこでも誰でもできる 地域づくりハンドブック 介護保険における生活支援体制整備事業のすすめ方	共著	2019.1	中央法規出版	柳史生 志水田鶴子, 大坂純	柳史生 志水田鶴子, 大坂純	16-47

実習指導必携 プロソーシャルワーク入門	共著	2018,11	八千代出版	中 鳶洋, 志水田鶴子, 大塚一郎, 市川享子, 大倉高志, 宮元預羽, 大賀有記, 横山順一	中 鳶洋 7名	16-21 24-27 100-103 119 135
---------------------	----	---------	-------	---	---------	---

翻訳						
翻訳書・翻訳論文等の名称	単訳 共訳	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共訳者名 (共訳の場合)	監修者名と当該訳者 数(監修訳書の場合)	該当頁数
無						

学術研究発表		
発表テーマ	発表年月(西暦)	発表場所
無		
無		

II 所属学会		
学会名	役職	入会年月(西暦)
日本社会福祉学会		1999
日本職業リハビリテーション学会		2000
日本医療社会事業学会		2002
日本地域福祉学会		2003
日本老年社会科学会		2003

Ⅲ 研究費の助成を受けた研究(過去5年間)				
助成機関名	助成を受けた年度 (西暦)	助成プログラム	研究テーマ	助成金額 (円)
文部科学省	2018.4~2022.3	2018 年度科学 研究費補助金 (基盤研究C)	生活支援体制整備事業における生活支援コーディネーターと協議体のあり方に関する研究	1,600,000

### 3. 特記事項

2019 年度	東北文化学園大学医療福祉部 保健福祉学科 非常勤講師
2019 年度	東北子ども福祉専門学院 非常勤講師
2019 年度	宮城県都市計画審議会委員
2019 年度	仙台市立病院治験審査委員
2019 年度	塩釜市地域支えあい推進協議体 委員長
2019 年度	社会福祉法人仙台手をつなぐ育成会「おり～ぶ太白」「おり～ぶ上野山」「おり～ぶ五橋」「おり～ぶ鉤取」「大野田はぎの苑」苦情解決制度第三者委員
2019 年度	宮城県地域支え合い・生活支援推進連絡会議 運営委員・研修講師
2019 年度	国見地域包括支援センター 包括県域会議(全体会)講師
2019 年度	仙台市訪問方生活支援モデル事業 講師
2019 年度	東近江市社会福祉協議会 住民と専門職がつながるセミナー講師
2019 年度	東松島小野市民センター 講演講師
2019 年度	南三陸町社会福祉協議会主催研修 講師
2019 年度	第4回宮城発これからの福祉を考える全国セミナー 第1部その2「協議体ってどう進めるの」コメンテーター
2019 年度	福祉有償運送運営協議会委員
2020 年度	東北文化学園大学医療福祉部 保健福祉学科 非常勤講師
2020 年度	東北子ども福祉専門学院 非常勤講師
2020 年度	宮城県都市計画審議会委員
2020 年度	福祉有償運送運営協議会委員
2020 年度	仙台市立病院治験審査委員
2020 年度	塩釜市地域支えあい推進協議体 委員長
2020 年度	富谷市介護保険運営委員会委員
2020 年度	社会福祉法人仙台手をつなぐ育成会「おり～ぶ太白」「おり～ぶ上野山」「おり～ぶ五橋」「おり～ぶ鉤取」「大野田はぎの苑」苦情解決制度第三者委員
2020 年度	宮城県地域支え合い・生活支援推進連絡会議 運営委員・研修講師
2020 年度	登米市社会福祉協議会 登米市東和総合支所 研修講師
2020 年度	仙台市太白区民生委員児童委員協議会 研修講師

2020年度 仙台市社会福祉協議会 研修講師

2021年度 東北文化学園大学医療福祉部 保健福祉学科 非常勤講師

2021年度 東北子ども福祉専門学院 非常勤講師

2021年度 宮城県都市計画審議会委員

2021年度 福祉有償運送運営協議会委員

2021年度 仙台市立病院治験審査委員

2021年度 社会福祉法人仙台手をつなぐ育成会「おり～ぶ太白」「おり～ぶ上野山」「おり～ぶ五橋」「おり～ぶ鉤取」「大野田はぎの苑」苦情解決制度第三者委員

2021年度 塩釜市地域支えあい推進協議体 委員長

2021年度 富谷市介護保険運営委員会委員

2021年度 宮城県地域支え合い・生活支援推進連絡会議 運営委員・研修講師

2022年度 東北文化学園大学医療福祉部 保健福祉学科 非常勤講師

2022年度 東北子ども福祉専門学院 非常勤講師

2022年度 宮城県都市計画審議会委員

2022年度 福祉有償運送運営協議会委員

2022年度 仙台市立病院治験審査委員

2022年度 社会福祉法人仙台手をつなぐ育成会「おり～ぶ太白」「おり～ぶ上野山」「おり～ぶ五橋」「おり～ぶ鉤取」「大野田はぎの苑」苦情解決制度第三者委員

2022年度 塩釜市地域支えあい推進協議体 委員長

2022年度 富谷市介護保険運営委員会委員

2022年度 宮城県地域支え合い・生活支援推進連絡会議 運営委員・研修講師

2022年度 仙台市精神保健福祉審議会委員

2022年度 石巻市社会福祉協議会地域福祉活動計画アドバイザー

2023年度 東北文化学園大学現代社会学部 現代社会学科 非常勤講師

2023年度 東北子ども福祉専門学院 非常勤講師

2023年度 宮城県都市計画審議会委員

2023年度 福祉有償運送運営協議会委員

2023年度 仙台市立病院治験審査委員

2023年度 社会福祉法人仙台手をつなぐ育成会「おり～ぶ太白」「おり～ぶ上野山」「おり～ぶ五橋」「おり～ぶ鉤取」「大野田はぎの苑」苦情解決制度第三者委員

2023年度 塩釜市地域支えあい推進協議体 委員長

2023年度 富谷市介護保険運営委員会委員

2023年度 宮城県地域支え合い・生活支援推進連絡会議 運営委員・研修講師

2023年度 仙台市精神保健福祉審議会委員

2023年度 石巻市社会福祉協議会地域福祉活動計画アドバイザー

## 自己点検表

### 1. 教員個別表

フリガナ ナカジマ ミドリ 氏 名 中嶋 みどり	職 名 准教授 人間学部 心理福祉 学科	取 得 学 位 博士(心理学) (大学名) 広島大学 (取得年月) 2005年 3月
-----------------------------	-------------------------	---

### 2. 教育・研究業績表

#### (1) 過去5年間の教育業績

教育実践上の主な業績	年月(西暦)	概 要
学生の理解度を知る工夫	2012年4月～	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リアクション・ペーパーの活用を以下の点から利用している。①学生の理解度を知り、それに合わせ、質問、誤解をフォローする説明、②自身の考えを比較的短時間で言語化する学習の機会、③有益なリアクションペーパーの内容を抽出し、配布することで、多様な学生の考え、感覚を知る機会としての学びである。平常点として評価に反映させている。</li> <li>・受講人数によるが、1人1人が心理臨床現場でどのように考え、行動・応答するかをホワイトボード、Jamboard などで個人の回答やロールプレイの実践をもとにした発見型学習とマニュアルによらない実践的な事例に基づく授業を行っている。</li> </ul>

#### (2) 過去5年間の研究業績

I 研究活動						
著書・論文等の名称	単著 共著	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共著者名 (共著の場合)	編者名と当該執筆 者数(編著の場合)	該当頁数
プレイセラピーから見た子どものこころの世界-初回面接を中心に-	単著	2019年3月	仙台白百合女子大学紀要 第23号			27-47
被爆者の人生を支えたもの-臨床心理士によるインタビューから-	共著	2018年11月	溪水社	被爆者の心の調査プロジェクト 一丸藤太郎・大澤多美子・倉永恭子・財満義輝・森田	被爆者の心の調査プロジェクト	3-45 290-334

				裕司		

翻訳						
翻訳書・翻訳論文等の名称	単訳 共訳	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共訳者名 (共訳の場合)	監修者名と当該訳者 数(監訳書の場合)	該当頁数
学術研究発表						
発表テーマ			発表年月(西暦)	発表場所		
①The content analysis of A-bomb experience and psychological sequelae in Hiroshima A-bomb survivors.			2017年7月	RAI Amsterdam Convention Centre		
②The content analysis of A-bomb survivor's psychological meanings of telling A-bomb's experience throughout their lives.			2019年7月	モスクワ大学		
③広島原子爆弾被害者の人生			2019年8月	昆明		
④被爆地を離れた被爆者の伝承活動に関する探索的調査			2022年3月	オンライン		

II 所属学会		
学会名	役職	入会年月(西暦)
日本心理臨床学会		1998年
日本子ども虐待防止学会		2000年
日本発達心理学会		2000年
日本児童青年精神医学会		2014年
日本母性衛生学会		2003年
日本遊戯療法学会		2006年
宮城県臨床心理士会	大学教育領域倫理委員(2019年度~2020年度)	2018年

Ⅲ 研究費の助成を受けた研究(過去5年間)				
助成機関名	助成を受けた年度 (西暦)	助成プログラム	研究テーマ	助成金額 (円)
日本学術振興会	2015年度～ 2019年度		原爆被害者の人生にわたる心の傷と支え	2,080,000
日本学術振興会	2020年度～ 2023年度		原爆被害者の人生にわたる心の支え-被爆地を離れた人の一生も含めた検討-	1,690,000

### 3. 特記事項

2019.2.11 (財)日本臨床心理士資格認定協会 資格継続研修会:いのちの臨床(事例検討会) 宮城県臨床心理士会代表ファシリテーター (仙台国際センター)  
2019年4月～2020年3月 宮城県臨床心理士会 大学教育領域 倫理委員

## 自己点検表

### 1. 教員個別表

フリガナ モテギ チアキ 氏 名 茂木千明	職 名 准教授 人間学部 心理福祉学科	取得学位 博士(学術) (大学名) 東北学院大学 (取得年月) 2004年3月
--------------------------	------------------------	---

### 2. 教育・研究業績表

#### (1) 過去5年間の教育業績

教育実践上の主な業績	年月(西暦)	概 要
1. 「紙上ソーシャルアトム」を活用した授業の実施	2013.4～	「心理福祉入門」の授業の中で、学生の自己理解に役立てることを目的に実施。
2. 「心理福祉総合演習Ⅱ」「心理福祉基礎演習Ⅲ・Ⅳ」(2年基礎ゼミ) フィールドワーク研究指導・報告書作成・ 学外の調査協力者への報告書の送付	2015.4～	2015 年度:「個人としての私☆職業人としての私:女子大生の考える『就活メイク &職業別メイク』」 2016 年度:「法学部でない私たちが『18歳選挙権』について考えた」 2018 年度:「小学生の放課後の過ごし方・遊び場」 2019 年度:「高齢ドライバーの実態と対策 ～若者に「できること」「伝えたいこと」 「知ってほしいこと」とは～」 2021 年度:「コロナ禍における消費傾向の変化と課題 ～新しい生活様式の中で より快適に過ごすために～」

#### (2) 過去5年間の研究業績

I 研究活動						
著書・論文等の名称	単著 共著	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共著者名 (共著の場合)	編者名と当該執筆 者数(編著の場合)	該当頁数
[著書]  [論文] 1. 守秘義務教育の現状と課題(1): 保育園実習を 終えた本学学生と現場の保育士および幼稚園教諭 を対象として	共著	2013.6	人間の発達(仙台白百合女子 大学人間発達研究センター紀 要)第8号	森本幸子・神 田あづさ・皆 川美雪・佐々 木美恵・遠藤 寛子		23-32 頁

2. 児童養護施設の子どもが作成した生活関係図： 家族関係単純図式投影法を応用して	単著	2015.6	人間の発達(仙台白百合女子 大学人間発達研究センター紀 要)第10号			29-36 頁
3. 守秘義務教育の現状と課題(2):教師とスクール カウンセラーを対象として	共著	2016.12	人間の発達(仙台白百合女子 大学人間発達研究センター紀 要)第11号	森本幸子・皆 川美雪・神田 あづさ・佐々 木美恵・遠藤 寛		41-47 頁
4. 「コミュニケーション演習」の教育効果に関する検 討:受講生のコミュニケーション・スキルの変化に着 目して	共著	2023.3	仙台白百合女子大学紀要 第 27号	結城裕也・家 子敦子		15-25 頁

翻訳						
翻訳書・翻訳論文等の名称	単訳 共訳	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共訳者名 (共訳の場合)	監修者名と当該訳者 数(監修訳書の場合)	該当頁数

学術研究発表		
発表テーマ	発表年月(西暦)	発表場所
1. 女子大生にとって大切な・身近なモノや人:紙上ソーシャルアトムを活用して	2012.11	日本精神衛生学会第28回大会(東京農工大)

II 所属学会		
学会名	役職	入会年月(西暦)
日本家族心理学会		1993
日本心理臨床学会		1996
日本精神衛生学会		1996
日本カウンセリング学会		1999
日本学生相談学会		2008

Ⅲ 研究費の助成を受けた研究(過去5年間)				
助成機関名	助成を受けた年度 (西暦)	助成プログラム	研究テーマ	助成金額 (円)

### 3. 特記事項

#### [学内の活動]

1. 学生相談室 カウンセラー(2000.10～現在)
2. 学生相談室 室長(学生相談室支援委員会委員長兼務)(2011.4～2013.10)
3. 学修支援センター 学生相談室 主任(2015.4～2020.3)

#### [学外の活動]

1. 2003～2010年度 :「家族相談士」養成講座(仙台会場) 講師 担当「家族アセスメント」
2. 2009年度 (2009.9.27):「家族相談士」継続研修講座 講師 テーマ「カウンセリングに活かすアセスメント技法」
3. 2009年度 (2009.5.16 & 10.31) :公立保育所合同業務研修(太白保育所・八木山保育所) 講師 講義および事例検討
4. 2012～2013年度:復興大学復興人材育成教育コース「復興の思想」 講師 担当「復興の心理」(2コマ) (2012.5.12 & 5.19)(2013.5.11 & 5.18)
5. 2012年度 (2012.12.19):のびすく泉中央「育ちの楽校」 講師 テーマ「気になる!子どものしつけについて～2、3歳児のへの親の関わり」
6. 2012年度 (2013.2.16):福島県北精神保健福祉士会×医療ソーシャルワーカー協会×社会福祉士会(合同研修会) 講師 テーマ「支援者の役割★私のキモチ」
7. 宮城県臨床心理士会 倫理委員 (2013.4～2019.3)
8. 2016年度(2016.11.19):宇都宮家庭裁判所「家裁調査官研修」 講師 テーマ「家族関係単純図式投影法の活用:家族アセスメントの視点から」
9. 2017年度(2017.9.21):宮城子ども総合センター「現任保育士研修」 講師 テーマ「保護者や保育士間のコミュニケーションについて」
10. 2020年度～ 仙台いのちの電話 専門委員  
 (2020.11.14) いのちの電話相談委員養成講座 講師 担当「カウンセリング理論Ⅰ・Ⅱ」  
 (2021.7.25) ボランティアリーダー養成講座 講師  
 (2022.2.12) いのちの電話相談委員養成講座 講師 担当「カウンセリング理論Ⅰ・Ⅱ」

## 自己点検表

### 1. 教員個別表

フリガナ ユウキ ヒロヤ 氏 名 結城 裕也	職 名 准教授 人間学部 心理福祉学科	取 得 学 位 修士(社会学) (大学名) 東洋大学 (取得年月) 2005年3月
---------------------------	------------------------	--

### 2. 教育・研究業績表

#### (1) 過去5年間の教育業績

教育実践上の主な業績	年月(西暦)	概 要
1. 学習到達テストの実施	2009.4～2014.3	生涯発達心理学, 心理測定法の講義等に関連して, 隔週で学習到達テストの実施しており, 学生各人の学習の到達の程度を確認した。学習レベルが未達の場合は, 個人面談を実施し, 今後の改善点等を学生と話し合い学習成果を高める取り組みを行った。このような取り組みを続けた結果, 学生の学習レベルが飛躍的に向上し, 国家試験の成績も期待以上の結果を得ることができた。
2. 授業関連動画の視聴	2009.4～	社会心理学では, これまでに実施された古典的な実験を, 当時の映像を振り返りながら解説した。社会心理学の実験の中には手続きが複雑なものも多く含まれるため, 映像によって理解が深まることが期待される。また, 生涯発達心理学では, 乳児や幼児の行動を映像で視聴することで, より人間の原始的な側面を理解するのに役立つことが期待される。いずれの映像においても, 学生からのフィードバックが大変評価が高いものであった。
3. グループ内討議の実施	2013.4～2016.3	心理学実験において, 想定した結果が得られたか否かに関わらず, どのような場合に想定した結果が得られない可能性があるのかをグループ内で討議し, 各グループで発表を行った。これらの取り組みによって, 教員側が一方的に実験をやらせるのではなく, 結果に対して各人がどのような

<p>4. 双方向型授業の実施</p>	<p>2013.4～2016.3</p>	<p>解釈を行うのかというクリティカル・シンキングを養うことを目指すものであった。このような取り組みによって、why という思考を持たせることに成功した。</p> <p>心理学実験調査実習 1 の講義で、「大きさの恒常性」を題材とした実験実習を担当した。事前に仮説を立てて実験を行い、得られたデータについて解析を行った。その結果について、学生と議論しながら、結果のまとめと考察、それらを踏まえたレポート執筆方法について詳細に説明を行った。なお、レポートの体裁、提出時間等、何度も指導を行い、単なるレポート課題にとどまらず社会に出るための準備としての指導も行った。</p>
<p>5. 双方向型授業の実施</p>	<p>2016.4～</p>	<p>少人数制のゼミ制度で、主に 8 名～10 名の構成員で双方向型授業を実施している。本学科の「地域に貢献する人材の育成」を目的に、函館地域で問題になっている事象についてフィールドワークを通じて明らかにし、その現象に対して社会心理学、産業・組織心理学的視点から、どのようなアプローチで解決へと導くのかを時間を掛けて検討している。なお、データの取得は、地元の中小企業を中心に、インタビュー調査、質問紙調査を実施し、結果を年度末に企業から一般市民へフィードバックしている。</p>
<p>6. プレゼンテーション相互評価の実施</p>	<p>2019.4～</p>	<p>心理学基礎演習 I (論文講読)において、発表学生が PowerPoint を使用してプレゼンテーションをする際に、発表者以外が発表者のプレゼンテーションを「画面」「説明」の枠組みで、5 段階で評価をさせている。また、発表に関して「特に評価したい点と理由」、「改善すればもっと良くなる点」、「疑問点、もっと議論したい点」などの自由記述項目を設け、次週の授業の最初に全員の前で評価をフィードバックしている。それにより、自分のプレゼンテーションが他者からどのように評価されているのかを知ることができ、改善点も明確にできると考えてい</p>

る。

(2) 過去5年間の研究業績

I 研究活動						
著書・論文等の名称	単著 共著	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共著者名 (共著の場合)	編者名と当該執筆 者数(編著の場合)	該当頁数
1. ジャーナリストの惨事ストレス	共著	2009.12	現代人文社		報道人ストレス研究会 (編) 執筆者:12名	pp.83-89.
2. 心理学基礎実験を学ぶ—データ収集からレポート執筆まで—	共著	2016.3	北樹出版		大和田智文, 鈴木公 啓(編者) 執筆者:17名	pp.20-29.
3. 保育者の保護者苦情対応に関する職務に対するネガティブな精神状態を軽減する方略の検討	共著	2020.3	函館大谷短期大学紀要 第34号	藤村敦・結城裕也・柴田亮		pp.11-15.
4. 保育場面における保護者の苦情内容と苦情に対する保護者の認知:KH Coderを用いた分析	共著	2020.9	人間発達研究センター紀要 人間の発達 第14号	結城裕也・藤村敦・柴田亮		pp.69-76.
5. 若い保育者が保護者苦情対応に関するネガティブな精神状態を軽減するための認知方略(1)	共著	2021.3	函館大谷短期大学紀要 第35号	藤村敦・結城裕也・柴田亮		pp.1-8.
6. 新型コロナウイルス感染症拡大に伴う遠隔授業が学生の心的健康に及ぼす影響	共著	2021.3	仙台白百合女子大学紀要 第25号	結城裕也・郡山昌明・渡邊兼行		pp.119-137.
7. 新卒5年目以下の保育者が保護者苦情対応によるストレスを軽減するための認知方略	共著	2022.3	函館大谷短期大学紀要 第36号	藤村敦・結城裕也・柴田亮		pp.1-8.
8. 「職業意識」の高い保育者とは?—保育者を対象としたテキストマイニングによる分析から—	共著	2022.3	仙台白百合女子大学紀要 第26号	結城裕也・藤村敦・柴田亮		pp. 17-32.

9. 試作版「保育者の職業意識尺度」の作成	共著	2023.3	仙台白百合女子大学紀要 第27号	結城裕也・藤村敦・柴田亮		pp.7-13.
10. 「コミュニケーション演習」の教育効果に関する検討	共著	2023.3	仙台白百合女子大学紀要 第27号	茂木千明・結城裕也・家子敦子		pp.15-25.

翻訳						
翻訳書・翻訳論文等の名称	単訳 共訳	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共訳者名 (共訳の場合)	監修者名と当該訳者 数(監修訳書の場合)	該当頁数
学術研究発表						
発表テーマ			発表年月(西暦)	発表場所		
1. 複合災害がもたらした「喪失」: 浪江町民への面接調査から			2013.11	日本社会心理学会第54回大会発表論文集,(沖縄国際大学)		
2. 感情労働及び感情労働後の対処方略と心身反応との関連			2014.7	日本社会心理学会第55回大会発表論文集,(北海道大学)		
3. Effects of emotional labour styles on the sense of mental and physical burden -coping strategies as parameters-			2015.8	10th Biennial conference of asian association of social psychology (Cebu, Phillipines)		
4. 福島原発事故避難者の現状とウェルビーイング(1)			2015.8	日本心理学会第79回大会発表論文集,(名古屋国際会議場)		
5. 福島原発事故避難者の現状とウェルビーイング(2)			2015.8	日本心理学会第79回大会発表論文集,(名古屋国際会議場)		
6. 保育者の保護者対応に関する職務に対するネガティブな精神状態を軽減する方略の検討			2018.10	学校教育学会第24回年会発表論文集,(北海道教育大学)		
7. 保育者の保護者苦情対応に関する職務に対するネガティブな精神状態を軽減する方略の検討—SCATを用いた20代保育者へのインタビュー分析から			2019.8	日本学校心理士会2019年度大会(聖徳大学)		

II 所属学会		
学会名	役職	入会年月(西暦)

日本心理学会 日本社会心理学会 日本感情心理学会 日本パーソナリティ心理学会	事務局幹事(2010.4-2013.3)	2003.4 2004.4 2005.4 2005.4
---	----------------------	--------------------------------------

Ⅲ 研究費の助成を受けた研究(過去5年間)				
助成機関名	助成を受けた年度 (西暦)	助成プログラム	研究テーマ	助成金額 (円)
仙台白百合女子大学	2019	人間発達研究センター助成金	保育者の精神的負荷を軽減しうる保護者からの苦情認知方略の類型化	165,000
仙台白百合女子大学	2020	人間発達研究センター助成金	苦情に対する対処可能性と苦情処理結果の原因帰属が保育者の精神的健康に及ぼす影響	239,200
科学研究費助成事業	2021-2025	基盤研究(C)・研究分担者	保育者の保護者苦情対応に関するレジリエンス向上プログラムの開発	900,000
仙台白百合女子大学	2021	人間発達研究センター助成金	保育者の職業意識尺度の開発	196,600
仙台白百合女子大学	2023	人間学研究センター助成金	「保育者の職業意識尺度」の信頼性と妥当性の検討	266,000

### 3. 特記事項

<p>(講演会・講習会等)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 三八漁業士会研修会(講師)「テーマ:北浜ほっき貝販売促進のための方策」(2018.2)</li> <li>2. 学都仙台コンソーシアム サテライトキャンパス講座(講師)「心理学実験から見る人間の不思議」(2019.10)</li> <li>3. 出張公開講座(講師)「心理学実験から見る人間の不思議」(ホテル佐勘)(2021.9)</li> <li>4. 学都仙台コンソーシアム サテライトキャンパス講座(講師)「説得の心理学—人が動かされるメカニズム—」(2021.10)</li> <li>5. 学都仙台コンソーシアム サテライトキャンパス講座(講師)「感情労働で苦しんでいませんか?—よりよく働くためのヒントを探る—」(2022.10)</li> <li>6. 多賀城大学講座(講師)「心理学実験から見る人間の不思議」(2023.5)</li> </ol> <p>(社会的活動)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. FMいるか いきいきライフスクール(解説)「テーマ:心理学実験から人を科学する」(2016.12)</li> <li>2. FMいるか いきいきライフスクール(解説)「テーマ:心理学で映画を読み解く」(2017.12)</li> <li>3. キャンパスコンソーシアム函館 アカデミックリンクWG 副座長(2017.4-2018.3)</li> </ol> <p>(非常勤講師)</p>
--

1. 仙台徳洲看護専門学校非常勤講師 (2020.4-)
2. 放送大学宮城学習センター非常勤講師(2023.4-)

## 自己点検表

### 1. 教員個別表

フリガナ 氏 名	カノ コ アツ コ 家 子 敦 子	職 名 人間学部	講師 心理福祉学科	取 得 学 位 (大学名)	看護学修士 宮城大学大学院 (取得年月) 2008 年 3 月
-------------	----------------------	-------------	--------------	------------------	---------------------------------------

### 2. 教育・研究業績表

#### (1) 過去 5 年間の教育業績

教育実践上の主な業績	年月(西暦)	概 要
介護実習(I・II・III) 講義「介護過程展開法」 講義「こころとからだのしくみ」 講義・演習「医療的ケアII」 演習「介護福祉総合演習」	2011～2022	
講義「人体の構造と機能及び疾病」	2018～現在	
演習「心理福祉基礎演習 I～III」	2016～現在	
演習「心理福祉専門演習 I～IV」	2016～現在	
演習「共通基礎演習」	2016～現在	
レクリエーション論	2022～現在	
レクリエーション演習	2022 年～現在	
コミュニケーション演習	2022 年～現在	
レクリエーション実習	2023 年～	
食事介助演習	2022 年～現在	

保健医療と福祉	2023年～現在	
生活と健康 D	2023年～	
精神保健福祉援助実習指導 I・II・III	2023年～	
精神保健福祉援助実習	2023年～	

(2) 過去5年間の研究業績

I 研究活動						
著書・論文等の名称	単著 共著	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称	共著者名(共著の場合)	編者名と当該執筆者数(編著の場合)	該当頁数
[著書]						
[論文]						
・A 県のへき地診療所における医療提供体制の特徴	共	2023年3月	日本ルーラルナーシング学会誌第18巻	共：霜山真他6名		P25～P32
・「コミュにエーション演習」の教育的効果に関する検討—受講生のコミュニケーション・スキルの変化に着目して—	共	2022年	仙台白百合女子大学紀要27号	茂木千明・結城裕也・冢子敦子		P117～135
・「介護過程の展開」実践力育成の課題	共	2022年3月	聖和学園短期大学紀要第59号	東海林初枝他2名		
・介護過程展開様式のプロセスからみえた介護過程スキル向上のための課題—介護過程展開法施設研修の5年間の取り組み—	共	2017	仙台白百合女子大学紀要22号	東海林初枝		
・女子学生の生活習慣病という観点からみる生活習慣改善への関心—インターネット資料読み取り型学習から—(研究ノート)	単	2015	仙台白百合女子大学紀要19号			
・終末期ケア論における授業材料としての「病家須知」の検討	単	2014	仙台白百合女子大学紀要18号			P83～87
[実践報告]						

・地域住民を対象としたレクリエーション事業の実践ーレクリエーション・インストラクター養成課程における実習の可能性をふまえてー	共	2023年2月	仙台白百合女子大学教職課程研究センター報第2号	仁藤喜久子		
・レクリエーション・インストラクター養成課程認定校としての取り組み	共	2022年2月	仙台白百合女子大学教職課程研究センター報第1号	仁藤喜久子		
[報告書]						
・介護福祉士養成課程 新カリキュラム教育方法の手引き(平成30年度生活困窮者就労準備支援事業等補助金社会福祉推進事業)	共	2019年3月	公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会	秋山昌枝他16名		
・介護過程展開の実践力向上のための調査研究事業 報告書(令和元年度生活困窮者就労準備支援事業等補助金社会福祉推進事業)	共	2020年3月	公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会	荏原順子他25名		
・介護福祉士養成継続研修の体系化に関する研究報告書(令和元年度社会福祉振興関係調査研究事業)	共	2020年3月	公益財団法人社会福祉振興・試験センター	本名靖他3名		
・介護福祉士養成継続研修の体系化に関する研究報告書(第2報)(令和元年度社会福祉振興関係調査研究事業)	共	2021年3月	公益財団法人社会福祉振興・試験センター	本名靖他6名		
・介護福祉士養成継続研修の体系化に関する研究報告書(第3報)(令和元年度社会福祉振興関係調査研究事業)	共	2022年3月	公益財団法人社会福祉振興・試験センター	本名靖他6名		
・宮城県へき地診療所の実態と看護師の支援ニーズ第7次宮城県地域医療計画(へき地医療)を踏まえて	共	2022年3月	東北ルーラルナーシング研究会	大塚真理子他7名		

翻訳						
翻訳書・翻訳論文等の名称	単訳 共訳	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共訳者名 (共訳の場合)	監修者名と当該訳者 数(監修訳書の場合)	該当頁数
外国人のための介護福祉専門用語辞典	共	2021.3	<a href="https://aft.kaigo-nihongo.jp/rpv/default.aspx">https://aft.kaigo-nihongo.jp/rpv/default.aspx</a> 公益社団法人 日本介護福祉士会 国際介護人材支援チーム	白井孝子他5名	白井孝子他3名	領域:こころからだのしくみ

学術研究発表		
発表テーマ	発表年月(西暦)	発表場所
・施設介護職員へのキャリアアップ支援(第2報) —介護過程の実践研修前後の意識の変化より—	2013.10	第21回日本介護福祉学会
・介護職員に向けた介護過程展開シートの考案 —介護過程展開法の施設研修により—	2014.10	第12回日本介護学会

II 所属学会		
学会名	役職	入会年月(西暦)
日本介護福祉士学会 介護福祉教育学会 日本ルーラルナーシング学会 日本在宅ケア学会 日本女性医学学会	2019年～2021年評議員  2019年第15回学術集会実行委員	2003～2022 2004～2022 2009～現在 2012～現在 2022～現在

III 研究費の助成を受けた研究(過去5年間)				
助成機関名	助成を受けた年度(西暦)	助成プログラム	研究テーマ	助成金額(円)
公益財団法人社会福祉振興・試験センター	2019	令和元年度社会福祉振興関係調査研究事業助成(社福振福二第44号)	介護福祉士養成継続研修の体系化に関する研究	300万
公益財団法人社会福祉振興・試験センター	2020	令和2年度社会福祉振興関係調査研究事業助成(社福振福二第53号)	介護福祉士養成継続研修の体系化に関する研究	300万
公益財団法人社会福祉振興・試験センター	2021	令和3年度社会福祉振興関係調査研究事業助成(社福振福二第43号)	介護福祉士養成継続研修の体系化に関する研究	300万
宮城大学	2021	令和3年度宮城大学教員研究費(指定研究費)	宮城県へき地診療所の実態と看護師の支援ニーズ 第7次宮城県地域医療計画(へき地医療)を踏まえて	47万

日本レクリエーション協会	2023	令和5年度 課程認定校研究連絡会議研究助成事業	レクリエーション課程認定校が開催する地域交流「健康スポレクひろば」の実践 —レクリエーション活動が高齢者にもたらす健康効果—	4.5万
--------------	------	-------------------------	---	------

### 3. 特記事項

#### 【講演会・研修会講師】

2015年 宮城県福祉・介護人材確保対策事業 修講師派遣事業研修会講師

2015年 宮城県福祉・介護人材確保対策事業 キャリアアップ支援研修会講師

2018年 社団法人宮城県介護福祉士会主催 介護福祉士基本研修 講師

2019年 宮城県老人福祉施設協議会主催 看取りケア研修講師

2019年 社団法人宮城県介護福祉士会主催 介護福祉士ファーストステップ研修 講師

2020年 10月～2021年3月 公益財団法人社会福祉振興・試験センター令和元年度社会福祉振興関係調査研究事業助成(社福振福二第44号)を受け、モデル研修会Ⅰ期を企画開催。

2021年 4月～2021年8月 公益財団法人社会福祉振興・試験センター令和2年度社会福祉振興関係調査研究事業助成(社福振福二第53号)を受け、モデル研修会Ⅱ期を企画開催。

#### 【事業助成】

2015年 厚生労働省告示 宮城県福祉・介護人材確保対策事業の助成を受け、聖和学園短期大学と宮城県介護福祉士会共同で介護職員対象に講師派遣事業介護過程の展開研修会を開催した。

2015年 厚生労働省告示 宮城県福祉・介護人材確保対策事業の助成を受け、介護職員・養成課程所属学生合同事例報告会を企画開催した。

2017年 厚生労働省告示 宮城県福祉・介護人材確保対策事業の助成を受け、介護人材確保対策事業を企画開催した。

2018年 厚生労働省告示 宮城県福祉・介護人材確保対策事業の助成を受け、介護人材確保対策事業を企画開催した。

#### 【社会活動】

2014年 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会主催 介護福祉士養成施設卒業時共通試験問題作成委員 ～2019年

2014年 聖和短期大学 非常勤講師 ～現在

2017年 仙台市健康福祉局保健高齢部介護保険課介護人材確保取り組み実行委員 ～2018年

2019年 日本ルーラルナーシング学会第15回学術集会実行委員 ～2020年9月

2019年 日本介護福祉学会評議員 ～2022年

2022年 宮城県委託事業 宮城県介護福祉士会介護施設コンサル事業 ～現在

## 自己点検表

### 1. 教員個別表

フリガナ タカタ ヨウヘイ 氏 名 高田 洋平	職 名 講師 人間学部 心理福祉 学科	取得学位 博士(地域研究) (大学名) 京都大学 (取得年月) 2017年 3月
----------------------------	------------------------	---

### 2. 教育・研究業績表

#### (1) 過去5年間の教育業績

教育実践上の主な業績	年月(西暦)	概 要
<p>1. 教育内容・方法の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アクティブ・ラーニングの導入</li> <li>・記入式レジュメの導入</li> </ul>	<p>2019年4月～ 現在</p> <p>2018年4月～ 現在</p>	<p>授業にディスカッション項目を設けるなど、アクティブ・ラーニングの要素を取り入れ、学生の表現力や議論のための力を高める双方向の授業を行っている。</p> <p>学生の授業に対する能動性を引き出すため、重要な語句や概念の一部については空欄とし、授業中に自身で記入を促すような記入式レジュメを導入した。</p>
<p>2. 作成した教科書、教材、参考書</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・『学びの技法(文書読解と作成)』『日本福祉大学テキスト』</li> </ul>	<p>2018年3月</p>	<p>学生の初年次科目「学びの技法」の開発にともない、そこで使用する教科書を作成した。「第7講 クリティカルシンキング(批判的読解)」、「第9講 読解と要約」を担当し、学生の読解力をはじめとするスタディ・スキルを高めることを目的とした。</p>

## (2) 過去5年間の研究業績

I 研究活動						
著書・論文等の名称	単著 共著	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共著者名 (共著の場合)	編者名と当該執筆 者数(編著の場合)	該当頁数
[著書] 1. 「第4章 ネパールの社会福祉」	共著	2020年3月	『新世界の社会福祉 第9巻 南アジア』旬報社。		日下部尚徳、5名	127-159頁
2. 「第40章 ようやく始まった社会保障制度の構築」	共著	2020年3月	『現代ネパールを知るための60 章』明石書店。		日本ネパール協会、 60名	246-250頁

翻訳						
翻訳書・翻訳論文等の名称	単訳 共訳	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共訳者名 (共訳の場合)	監修者名と当該訳者 数(監修訳書の場合)	該当頁数

学術研究発表		
発表テーマ	発表年月(西暦)	発表場所
1.ネパールのストリート政策と運動	2020年10月4日	南アジア学会第33回全国大会(京都大学)(ズーム開催)

II 所属学会		
学会名	役職	入会年月(西暦)

国際開発学会 日本社会福祉学会 日本文化人類学会 南アジア学会		2020年4月 2010年4月 2010年4月 2010年4月
--	--	--

Ⅲ 研究費の助成を受けた研究(過去5年間)				
助成機関名	助成を受けた年度 (西暦)	助成プログラム	研究テーマ	助成金額 (円)
1.日本学術振興会	2020年度～ 2022年度	科研費(若手研究)	ネパールの貧困層にとってのストリート空間と共同性	
2.日本福祉大学	2019年度	助教研究特別 支援<A枠>	ネパールの貧困層とストリート空間	

3. 特記事項

--

## 自己点検表

### 1. 教員個別表

フリガナ 氏名	ミウラ カズオ 三浦 和夫	職名 人間学部	講師 心理福祉学科	取得学位 (大学名)	博士(社会福祉学) 東北福祉大学	(取得年月) 2017年 3月
------------	------------------	------------	--------------	---------------	---------------------	-----------------

### 2. 教育・研究業績表

#### (1) 過去5年間の教育業績

教育実践上の主な業績	年月(西暦)	概要
(1) 介護実習事例報告集の作成と介護実習事例報告会の実施	2013年度～2017年度	・最終段階の介護実習終了後は、実習中受け持った利用者の介護過程の振り返りを行い、介護実習事例報告集としてまとめている。また、介護実習事例報告会に向けて発表等の準備を行い、プレゼンテーション方法の向上につなげている。
(2) 心理福祉実習報告集の作成	2013年度～2020年度	・心理福祉実習終了後は、実習内容をもとに報告書を作成し、心理福祉実習報告集としてまとめている。

#### (2) 過去5年間の研究業績

I 研究活動						
著書・論文等の名称	単著 共著	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共著者名 (共著の場合)	編者名と当該執筆 者数(編著の場合)	該当頁数
<著書> <論文> ・「地域包括ケアシステムにおける介護老人福祉施設の役割に関する研究 ―施設長へのインタビューを通して―」	単	2021年 3月	仙台白百合女子大学紀要第25号			89-98

翻訳						
翻訳書・翻訳論文等の名称	単訳 共訳	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共訳者名 (共訳の場合)	監修者名と当該訳者 数(監修訳書の場合)	該当頁数

学術研究発表		
発表テーマ	発表年月(西暦)	発表場所
① 「介護職員の離職意向に関する研究 -雇用形態と性別に着目して-	2018年9月	第26回日本介護福祉学会
② 「介護サービス別にみる介護職員の離職要因に関する研究」	2019年9月	第27回日本介護福祉学会
③ 「地域包括ケアシステムにおける介護老人福祉施設の役割に関する研究」	2020年10月	第28回日本介護福祉学会

II 所属学会		
学会名	役職	入会年月(西暦)
① 日本認知症ケア学会		2007年
② 日本介護福祉学会		2007年
③ 日本感性福祉学会		2007年
④ 日本社会福祉学会		2008年
⑤ 日本老年社会科学会		2009年
⑥ 日本地域福祉学会		2020年

III 研究費の助成を受けた研究(過去5年間)				
助成機関名	助成を受けた年度(西暦)	助成プログラム	研究テーマ	助成金額(円)
日本学術振興会	2015-2018	平成27年度 科学研究費助成事業(若手研究B)	「高齢者福祉施設における介護職員の離職軽減に関する基礎的研究」	2,470,000円
日本学術振興会	2021-2023	令和3年度 科学研究費助成事業(若手研究)	「認知症の妻を介護する夫介護者の特性に関する基礎的研究」	2,210,000円

### 3. 特記事項

・学校法人 江渡学園 八戸社会福祉専門学校 非常勤講師	(2008年～2010年)
・学校法人 富澤学園 東北文教大学 非常勤講師	(2010年)
・学校法人 富澤学園 東北文教大学短期大学部 非常勤講師	(2010年)
・介護福祉士国家試験(実技試験)実地試験委員	(2013年3月～2016年3月)
・仙台白百合学園高等学校 非常勤講師	(2018年10月～2020年3月、2021年10月～)



## 自己点検表

### 1. 教員個別表

フリガナ      ヨシダ ヒロミ 氏 名      吉 田 弘 美	職 名 人間学部	講 師 心理福祉学科	取 得 学 位      修士(健康福祉) (大学名)      東北文化学園大学大学院健康社会システム研究科 (取得年月)      2005 年 3 月
---------------------------------------	-------------	---------------	--

### 2. 教育・研究業績表

#### (1) 過去 5 年間の教育業績

教育実践上の主な業績	年月(西暦)	概 要
①社会福祉士 2021 年度カリキュラムにおける実習教育研究会の実施	2022・10～	令和 5 年度より開始される「新カリ実習」へ向けて、宮城県内の養成校・社会福祉士会・実習指導者からメンバーを構成し、実習の枠組みの共有や実習教育・指導のあり方を検討することを目的に研究会を発足した。月 1 回(第 1 土曜)を定例会として、情報交換や共同研究を行っている。
②介護実習事例報告会の実施	2018.4～2023.3	介護福祉士養成課程では最終段階の介護実習終了後に、現場で学んだ受け持ち利用者の介護過程の展開を振り返り、事例報告集を作成している。特に、アセスメントと考察の個別指導を丁寧に行い、学生と語り合う中で介護観・福祉観をみつめる機会としている。 可能な限り、在学生、施設の実習指導者や入学を予定している高校生に参加を働きかけ、プレゼンテーション方法の向上につなげている。
③生活支援技術の授業展開の工夫	2018.4～2022.3	「移動の介護」では、1 年次の基礎学習を発展させ、泉中央付近での車いす外出を 2 年次に実施した。グループで立案した外出支援計画書に沿って体験学習を行い、事後指導にはレポート作成や報告会を行った。要介護者および介護者、地域住民の立場で多角的に考察することができた。また、「福祉用具の活用法」の単元では、リハビリテーション工学の視点から評価する演習を行い、観察力、分析力を養った。
④「心理福祉基礎演習 I II III IV」ゼミ研究成果報告会の開催	2018.4～	初年次教育の学部共通科目「共通演習」を発展させ、「心理福祉基礎演習」で身近な地域課題にかかわるフィールドワークに向けて指導している。また、学科基演習の成果発表の機会として、白百合祭ならびに公開講座を企画運営する。学生の主体性。協調性・プレゼンテーション力を高め

⑤「心理福祉専門演習ⅠⅡⅢⅣ」の授業展開の工夫	2018.4～	ると同時に、学科の教育の特色をアピールしている。 ゼミの大テーマである「施設における高齢者や障害者の生活のあり方」をもとに、学生自身の問題意識を尊重しながら研究テーマを設定している。文献研究のほか学外授業も取り入れ広い視野で学習を深めている。成果として、3年・4年合同の報告会やゼミ論の執筆、2021年度入学生からは学科必修として卒業研究指導に取り組む。
⑥「国際福祉体験実習」研修報告書の作成	2018.4～	心理福祉学科のグローバルWG担当として、研修の企画立案と運営に携わる。2016年度以降は活動報告書を作成し、学科の成果物としてオープンキャンパス等で紹介している。
⑦「介護総合演習ⅠⅡⅢ」の授業展開の工夫	2018.4～	介護実習の事前教育(アクティブラーニング)として介護現場を訪問し、学生自身が主体的に企画したアクティビティを実践することで、利用者とのコミュニケーション力や個別ケアの実践力を養った。
⑧学生生活実態調査の実施	2019・8	2014年度に初めて実施された学生生活実態調査から5年が経過し、学生の動向や変化を把握するために2回目の調査を行った。教学委員会のワーキンググループリーダーとして取りまとめを行う。回収率を上げるためにweb調査とし、結果は大学ホームページ上で公開した。
⑨「共通基礎演習」	2020.4～2021.3	本学の初年次教育の基礎となる学部共通科目として2019年度より開講し2年目となる。2020年度の科目担当として、授業案作成など教育プログラムの検討を行った。

(2) 過去5年間の研究業績

I 研究活動						
著書・論文等の名称	単著 共著	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共著者名 (共著の場合)	編者名と当該執筆 者数(編著の場合)	該当頁数
[論文] 「介護過程の展開」実践力育成の課題	共	2022・3	聖和学園短期大学紀要 第59号	家子敦子 東海林初枝		117-135

〔報告書〕 「介護福祉士養成継続研修の体系化に関する研究報告書」第3報	共	2022・3	社会福祉振興関係調査研究事業の助成研究 社福振福二第44号	本名 靖 東海林初枝 家子敦子 久田はづき 山川ひかり	1-68
〔報告書〕 「介護福祉士養成継続研修の体系化に関する研究報告書」第2報	共	2021・3	社会福祉振興関係調査研究事業の助成研究 社福振福二第44号	本名 靖 東海林初枝 家子敦子 久田はづき 山川ひかり	1-53
〔報告書〕 「介護福祉士養成継続研修の体系化に関する研究報告書」第1報	共	2020・3	社会福祉振興関係調査研究事業の助成研究 社福振福二第44号	本名 靖 東海林初枝 家子敦子	1-63
〔論文〕 「環境因子から見た介護福祉士養成の現状」	単	2017.3	仙台白百合女子大学紀要第21号		87-97
〔報告書〕 東日本大震災における支援物資としての介護機器の支援状況に関する検証研究	共	2013.5	第23回フランスベッド・メディカルホームケア研究・助成財団報告書	吉田泰三 樫本堅一 他1名	1-30
〔研究ノート〕 初めての施設実習で遭遇した気がかりと感じた場面の分析～第1段階介護実習のリアクションペーパーより～	共	2011.1	仙台白百合女子大学紀要 第15号	家子敦子	89-96

[資料] 介護福祉士のための福祉用具評価ツールに関する一考察	単	2011.1	仙台白百合女子大学 紀要 第15号			97-107
-----------------------------------	---	--------	----------------------	--	--	--------

学術研究発表		
発表テーマ	発表年月(西暦)	発表場所
(共)熊本地震における「支援物資としての福祉用具」に関する研究	2017.8	第32回リハ工学カンファレンス(兵庫県神戸市)
(共)介護職員に向けた介護過程展開シートの考案 －介護過程展開法の施設研修の実施より－	2014.10	第12回日本介護学会(山口)
(共)施設介護職員へのキャリアアップ支援[第3報] －介護過程実践研修前後の意識の変化－	2013.10	第21回日本介護福祉学会大会(熊本)
(共)「施設介護職員へのキャリアアップ支援」 －現場の実事例を用いた介護過程の実際－	2012.9	第20回日本介護福祉学会大会(京都)

II 所属学会		
学会名	役職	入会年月(西暦)
日本介護福祉教育学会		2001.4
日本介護福祉学会		2002.4
日本介護学会		2004.3
日本社会福祉学会		2005.3
日本行動療法学会		2009.6

III 研究費の助成を受けた研究(過去5年間)				
助成機関名	助成を受けた年度	助成プログラム	研究テーマ	助成金額

	(西暦)			(円)
公益財団法人 日本レクリエーション協会	2023	令和5年度研究助成事業	レクリエーション課程認定校が開催する地域交流「健康スポレクひろば」の実践—レクリエーション活動が高齢者にもたらす健康効果—	4.5 万円
公益財団法人社会福祉振興・試験センター	2019	社会福祉振興関係調査研究事業の助成研究 社福振福二第44号	介護福祉士養成継続研修の体系化に関する研究(Ⅰ期)	300 万円
公益財団法人社会福祉振興・試験センター	2020		介護福祉士養成継続研修の体系化に関する研究(Ⅱ期)	300 万円
公益財団法人社会福祉振興・試験センター	2021		介護福祉士養成継続研修の体系化に関する研究(Ⅲ期)	298 万円

### 3. 特記事項

[非常勤講師]

・白百合学園高等学校 2 年生「福祉総合」2018・12-2019・1、2023・11

[研修会講師など]

・平成 26 年度介護福祉士養成施設実習指導者特別研修会講師(「介護過程の理論と指導方法<演習>」担当) 2014・7

[教員講習会の受講状況]

・社会福祉士・精神保健福祉士実習演習担当教員講習会修了 2019・8・

・介護技術講習会主任指導者 2008.9

介護教員講習会修了(厚生労働省)2007・10

[委員等]

- ・宮城県「ケアスタッフサポートセンター」相談員 2023・7-2024・2
- ・みやぎ介護人材を育む取組宣言認証制度(第2段階)確認調査員 2020・4～
- ・社会福祉法人仙台白百合会評議員 2017・4～
- ・第26回介護福祉士国家試験(実技試験)実地試験委員 2014・3
- ・平成25年度仙台市泉区介護認定審査会委員 2013・4～2017・3、2019.4～
- ・平成23年度介護福祉士養成施設卒業時共通試験問題作成協力員 2011・7

[社会貢献など]

- ・平成24年度被災者就労支援事業 2級訪問介護員養成研修 2013・1、2013・2
- ・被災者就労支援事業 2級訪問介護員養成研修 「高齢者、障害者の心理」、「相談援助とケア計画の方法」、「実習前指導」の講義担当 2012・2
- ・宮城県介護福祉士会の要請により、東日本大震災時の避難所での夜間介護支援に従事する。2011・3、2011・5

[宮城県介護従事者人材確保対策事業]

- ・2018年度 宮城県介護従事者人材確保対策事業入学促進事業(94万円)
- ・2017年度 宮城県介護従事者人材確保対策事業入学促進事業(530万円)

[学内活動]

- ・仙台白百合女子大学後援会理事 2019・4～2020・3
- ・2019年度学生生活実態調査の実施、報告書作成(教学委員会副委員長)2019・4～2020・3
- ・白百合カフェ(認知症カフェ)の開催 2016・3～2017・3
- ・2014年度仙台白百合女子大学出張講座 2014・6(三戸高校)、2014・11(石巻北高校)
- ・サークル「チアリーダー部 VELVETS 顧問 2010・4～